

令和2年2月28日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

福島町議会議員 溝 部 幸 基 ㊟

研修成果報告書

福島町議会議員の研修に関する条例第7条の規定により、次のとおり報告します。

記

- 1 研修日時 平成2年2月13日(木)
午後3時30分～午後4時40分
- 2 研修先 知内町(知内町中央公民館)
- 3 研修目的 渡島西部四町議会議員連絡協議会議員研修会
- 4 研修会の講演内容等
 - ① 演題 「人口減少社会において持続可能な地域公共交通の
確保に向けた考え方、取り組み方」
 - ② 講師 NPO法人 まちづくり支援センター
代表理事 為国 孝敏 氏
(国土交通省関東運輸局 地域公共交通マイスター)
- 5 研修成果 別紙のとおり

5. 研修成果

福島町の「デマンドバスの運行状況について」は、三師会からの公開質問状・要望書を受け、経済福祉常任委員会で所管調査をしている。医療利用町民等からの切実な声を踏まえ、要請に応えた調査では、

- ① 利用料値下げの検討が望ましい。
- ② デマンドバス未運行区間の解消を国へ強く訴えられたい。
- ③ 将来の交通体系を見据えた一元的運行の検討をとの報告になっている。

今回の研修は、常任委所管調査の状況を思い出しながら、少しではあるが比較検討できたと思っている。勿論、専門家の理想とはかけ離れ、執行者側、議会ともに精度が低く、自慢するほどのものではないが、議会の関わり方としては、現状を考えると「まずまず」といったところではと思いました。

そういった意味で、感想としては、津別町をはじめ紹介された市町村の議会が計画等にどう関わり、どう役割を果たしたかの話が全くなかったことが残念でしたし、「地域公共交通マイスター」としてのPRが強調され、議員研修会よりは、執行者・担当職員向けの研修会としたほうが成果が上がるのではと感じました。しかし、政策形成の「計画・決定・執行・監視・検証」、PDCAサイクルについて、あらためて勉強ができましたし、今後の課題となる、人口減少高齢化が続く福島町の公共交通体系の在り方、一元的運行の検討に参考になることは間違いありません。

町民懇談会でも、「デマンドバス利用料値下げ」「免許返納者への対応」「遠隔地独居高齢者への配慮」等、多くの課題が提起されており、引き続き関心を持って取り組んでまいりたいと思っております。

*今後の検討資料として、津別町と比較した推測データを作成しておきました。

<公共交通ターゲットの推測データ：津別町と福島町との比較>

項目	津別町	福島町	備考
人口 (平成28年12月現在)	4,720	4,346	
総面積	716.80km ²	187.25km ²	
年齢構成：65歳以上	2,004	1,890	
75歳以上	1,108	1,022	
20以上～65歳未満	2,125	1,449	
運転免許保有者数	2,964	2,729	北海道比率：62.8%
65歳以上運転免許保有率	910	858	北海道比率：45.4%
75歳以上運転免許保有率	288	265	北海道比率：26.0%
運転免許を持たない人数	1,756	1,617	全人口一免許保有者
〃 65歳以上人数	1,094	1,007	津別町の比率
〃 75歳以上人数	820	755	〃
〃 20以上～65歳未満人数	71	48	〃

*津別町では、地域特性に合致した公共交通ネットワークが形成されている。

学校統合で導入されたスクールバスを活用し、郊外路線の一部でスクール混乗路線とするなど、地形、道路・人口分布状況に合わせた運行形態、車両・運転手の有効活用等、工夫の蓄積がみられ、福島町が参考とすべき取り組み姿勢は、沢山あると推察できる。